

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

宮崎県立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇

1 今回の授業について

【単元】2次関数 【授業内容】2次関数の最大値・最小値の場合分け（2／3時間）

【ねらい】前時にまとめた場合分けの確認をしながら、生徒同士の対話を通して問題を解く。

こちらからの説明は最小限にとどめ、なるべく生徒の活動を多く取り入れ正解を導く。

2 授業を振り返っての感想、いただいた意見

【感想】授業を行った「最大・最小の場合分け」は生徒たちが理解に時間がかかるため、毎回丁寧な説明を心がけている。今回は前時に場合分けのポイントをタブレットを利用し、生徒にグラフを提示しながらまとめさせることに1時間を使い、理解をしてから問題に取りかからせるようにした。本時は開始時にまとめのプリントを使い隣同士の生徒で確認をさせたうえで、問題を1題解説し、それを利用して演習問題を2題考えさせた。生徒同士は隣の生徒と確認しながら、問題を解けるようになったので、今回の目標は達成できた。しかし、生徒が問題を解く事に集中し、意見交換が活発ではなかった。

【意見】・生徒同士の確認をさせる際には、説明をする側と聞く側の役割を明確にさせた方がよい。

- ・生徒の意見を交換する場面をもっと取り入れた方がよい。
- ・授業後の振り返りを行った方がよい。
- ・パターンを理解させることはいいが、パターン外の問題を解く際にはどうか？
- ・問題を解けるようになる事が目標である前に、場合分けをする本質を問うべきではないか？
- ・黒板に解答を写すだけでは生徒の答案作成の力はつかないのでは？その後はどうしているのか。

3 その後の授業について（意見をもとに改善した点）

- ・毎時間の終了時には本時の振り返りを生徒同士にさせるようにした。また、課題（B 4横置き3段の右側）に授業のまとめをさせるスペースを設けた（毎日ではない）。さらに、授業の開始時は前時の確認をするようにし、本時の授業の目標を明確にすることで苦手になっている生徒もゴールイメージがつかめるようになった。
- ・授業プリントを作成（教科書会社のデータを利用）し、生徒の対話をする時間を多く取り入れるようにした。特に、定理や公式に関してはただ覚えるだけでなく、証明法を考えさせるようにすることで、長期的な記憶に繋がられるようになった。また、考え方を共有するために、演習問題ではホワイトボードに考えたことをグループごとにまとめさせ、発表させる時間を取り入れるようにしたことにより、別解等も考えるようになった。
- ・生徒の答案作成力を見るために、演習問題に取り組むときは提出させた課題を1枚ずつ添削している。

4 「主体的・対話的で深い学び」の授業を行う留意点

- ・単元やその日の授業、その週の授業のゴールイメージを提示することが必要。そのためには事前の準備が大切となる。どのタイミングで活動を取り入れるのが効果的かなど、発問内容、発問の方法も含めて準備する。
- ・「授業で伝える時間」、「グループでの活動」、「個人で考える時間」のバランスをどうするか。
また、アウトプットが苦手な生徒、他者と協力することに苦手意識がある生徒への配慮をどうするか。
- ・現在学んでいることが今後どのように活用されていくか、習得したことをどう活用するか。
- ・評価の在り方、授業の進度

5 「教科の特質に応じた見方・考え方」を働かせた「主体的・対話的で深い学び」の授業実践について

- ・タブレットを利用する場合、事前の準備が大変ではあるが、一度作成すると何度でも、誰でも利用できる利点があるため、その学校で共通した教え方ができ、さらに生徒の活動を多く取り入れる時間の確保に繋がる。
- ・単元終了後には生徒の理解をより深めるため、生徒同士で問題を作成し解説をさせることで、問題の本質を理解し、さらにそれを小テスト等に出題することで生徒たちの主体的な取り組みに繋がる（前任校で実施した）。
- ・教師側が「時間がないから」という理由で生徒の考える時間を奪わないこと、正解を教えないこと。間違ってもよい雰囲気（場）を作り、生徒たちが自主的に互いの考えを共有するようになるまで待つことが大切である。
- ・対話とは、個人の対話（個で考える）も含まれる。つまり、自分で考え、答えを導くことも必要である。